

平成 29 年 1 月 18 日

報道機関 関係者各位

学校法人東京農業大学戦略室

東京農業大学 125 周年記念事業 フランス大使館・東京農業大学共催フォーラム

アグロエコロジーと、1000 分の 4 土壌イニシアチブ

Agroecology and 4 for 1000 initiative for soils

東京農業大学(東京都世田谷区桜丘 1-1-1、学長:高野克己)では、創立 125 周年記念事業の一環として、フランス大使館と共催でフォーラムを開催いたします。

国連気候変動枠組条約のパリ協定が締結されました。パリ協定は京都議定書に代わる、2020 年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みです。ホスト国のフランスは第 21 回締約国会議で“4 per 1000”イニシアチブを表明しました。このイニシアチブは「農業や農業土壌が食糧安全保障と気候変動に重要な役割がある」としており、土壌の炭素貯留を促進させることによって、温暖化緩和と持続的農業生産の両方を達成することを目指しています。本フォーラムでは「地球温暖化問題と土壌の炭素貯留を促進させる科学」を解説し、さらに、世界におけるアグロエコロジーの事例を紹介します。

日 時:平成 29 年 1 月 27 日 (金) 10:00-17:00

会 場:東京農業大学世田谷キャンパス 農大アカデミアセンター横井講堂 (地下 1 階)

使用言語:日本語・フランス語 (同時通訳あり) 申込・参加費:不要

【プログラム】(11:00、12:10、15:00 に休憩予定)

- 9:30 受付
- 10:00 開 会 / 共催者挨拶
挨拶 1 高野 克己 東京農業大学 学長
挨拶 2 Thierry Dana 駐日フランス大使館 大使
挨拶 3 西郷 正道 農林水産省大臣官房 技術総括審議官
挨拶 4 森下 哲 環境省 大臣官房審議官
- 10:30 講演 1 Etienne Hainzelin フランス国際開発農業研究センター顧問・オタワ大学客員教授
- 11:15 講演 2 Dr Marion Guillou フランス農業経済・獣医・森林研究所 所長
- 11:45 講演 3 白戸 康人 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)
農業環境変動研究センター 気候変動対応研究領域
土壌炭素窒素モデリングユニット長
- 13:30 ケーススタディー 1 Rémi Cluset フランス国農業省農業専門官・国際連合食糧農業機関 (FAO)
アグロエコロジー専門官
ケーススタディー 2 中西 康博 東京農業大学国際食料情報学部 教授
ケーススタディー 3 志和地 弘信 東京農業大学国際食料情報学部 教授
- 15:15 パネルディスカッション 司会 加藤 拓 東京農業大学応用生物科学部 准教授
パネラー 農業経営者 Pierre Pujos 氏、佐藤 裕一氏、大嶋 康司氏
- 16:30 全体総括 Dr Marion Guillou フランス農業経済・獣医・森林研究所 所長
岩永 勝 独立行政法人国際農林水産業研究センター 理事長
- 17:00 閉 会

▼本フォーラムの内容に関するお問い合わせ

東京農業大学総合研究所 Tel03-5477-2532

東京農業大学国際協力センター Tel03-5477-2560

※報道機関関係者で、ご参加いただける方は下記お問い合わせ先にご連絡ください。

●このリリースに関するお問い合わせ●

学校法人東京農業大学戦略室 上田・矢木

〒156-8502 世田谷区桜丘 1-1-1 Tel03-5477-2300/Fax03-5477-2707

www.nodai.ac.jp